

1. 兒童用書の範畫は參考として鉛筆淡彩畫と比較させるがよいのである。
2. 眼の位置と嘴の形とを鷹鷲のそれに比較して鳩の可愛らしさと一方の猛々しさをよく直觀せしめ描寫上の注意を與へるがよい。
3. 教具としては鳩、鷹鷲の標本及び鳥類の描法順序説明圖を用意させなければならぬ。

高等小學第二學年

第一學期

第一課 花 (寫生畫)

1. 極めて正確に描かせねばならぬ。
2. 教具としては鑑賞用にするため大家の筆になれる花の繪を準備する外、花の範畫鉛筆淡彩畫、毛筆畫水彩畫、花の描寫順序圖が是非必要である。

第二課 花 (寫生畫)

1. 教具は前課に於て準備したるもの、外、各種の花の便化資料及び便化したる範畫を用意せなくてはならない。

2. 教師用書注意の項の終りに、十分觀察させて後輪廓を消略して直ちに畫かし、ひる方法を探つてもよいことが説明してあるが、その方法によれば成績の好結果を期得する事は勿論出來ないことであることを承知して居らなくてはならない。即ちかう言ふ方法もあると言ふことを試験的にやらせて見ると言ふにとどまるのである。

第三課 模様 (考案畫)

1. 兒童用書の第一圖に參考として示してある模様の描法を説明すると大略次の通りである。
イ花菱 沒骨法である。即ち深緑に少量の岱赭を混じた色で地を平塗としてある。花菱は赭黄で總塗の上を前者と同一色で沒骨塗をしてある。
ロ松 沒骨法と描起しである。地色は赭黄墨の平塗であり、松葉は塗り残したる中を緑、黄藍、岱赭に少量の混色をして各平塗とし、其の輪廓と枝は岱赭に臘脂に藍を少量混じて線描きしたのである。
ハ櫻 描起しである。全面は岱赭に少量の藍で平塗。岱赭に少量の臘脂と藍

とを混じて、莖及び花瓣を残して地の縞を描き、莖は緑花及び蕾を胡粉で描き最後に縞の濃き部分と同一色でくゝるのである。

ニ梅 沒骨法である。

ホ麥 沒骨法と括りである。深緑に少量の岱赭を混じて全面を總塗とするのである。赭黄で麥の穂と莖葉を沒骨描きとし、糊粉にて芒を描き最後に藍勝の緑で莖及び葉を括るのである。

へ渦卷に械 鈎勒沒骨法である。械は先づ墨にて輪廓を描き、朱、岱赭と少量の藍、藍に少量の胡粉にてそれくゝ内容を彩色するのである。地は藍に少量の墨を混じて平塗とし、胡粉にて渦卷を描く。械の葉脈は胡粉及び胡粉に少量の岱赭を混じたるもので線描きするのである。

ト笹と雪輪。地は緑と少量の岱赭の平塗である。平塗の上を、笹、雪輪、笹縁の順序で描き上げる。

笹は岱赭と少量の臘脂及び藍の混合色、及び藍勝の緑、笹縁は胡粉である。雪輪は藍の淡きもの。

チ蕨 沒骨法である。地は赭黄、蕨は藍及び胡粉と少量の朱の混合色沒骨描法である。

リ蝶 綵網法である。地は岱赭、臘脂、藍の混合色で蝶を残して平塗。格子目及び蝶の觸角は臘脂と墨。蝶は次の色にて淡色より濃色への順序にて重ねるのである。

青い蝶——淡き藍、藍勝の緑。

赤い蝶——淡き朱、朱墨。

2、教具としては、

イ、各種模様形式説明圖。

ロ、内部、外部便化説明圖。

ハ、配色手引。

ニ、範畫としての便化圖及び各種模様數枚

第四課 器物工作圖 (寫生畫)

1、第一學年の第十八課第十九課と略ぼ同一の取扱でよいのである。其の他は

教師用書の説明にある通りでよい。

- 2、教具としては、範畫一枚、卷煙草入(木製)數個を準備する必要がある。

第五課 犬又は馬 (臨畫)

各種の姿勢を教授すると同時に、活動状態に於ける各部分の形狀を理解せしめなくてはならない。それがためには主として頭、脚、尾の三部につきて觀察を區分的に取扱はねばならないのは勿論、特に前肢と後肢の關係形狀につきては充分の注意を要する。

- 2、教師用書には描寫の順序方法は總て兒童各自に工夫せしむべしとあるけれども、それは稍々困難であるから、やはり描法順序説明書に依つて指導するがよいのである。

- 3、教具としては、姿勢畫、骨格説明圖、及び描法順序説明圖を用意せねばならぬ。

- 4、教師用書の注意事項は特に必要である。

第六課 獸類 (寫生畫)

- 1、教師用書の注意事項は特に必要である。

- 2、兒童用書の範畫を参考せしむるがよい。

- 3、教具としては、兎其他適當なる剝製標本を兒童五六人に一個宛、範畫數枚、觀賞用の獸類の畫、及び描法順序説明圖を用意しなくてはならない。

第七課 果實 (寫生畫)

- 1、背景に何も添ゆるものを描かず、單に果實だけを畫く場合には總じて第一圖の如く畫面の上部に遍したる構圖の方が感じがよい。紙面の下部に遍したるは見苦しいものである。

- 2、教具としては、描法順序説明圖及び範畫二、三枚、尙觀賞用として程度の高さ果實の繪を準備するがよい。

第二學期

第八課 川の景色又は海の景色 (臨畫)

- 1、川の景色、海の景色兩者共に形よりも比較的彩色に重きを置いて教授するがよい。形は少々手本と違つて居ても不合理な處がなければ先づよいとしなければならぬ。無論彩色と雖も範畫通り寸分異はぬやうに出來ねばならぬと

は要求しないのであるが、秋の感じを表はすと言ふ點に於ては必ず手本の如くなくてはならないのである。即ち部分部分の色には多少の相異があつても秋と言ふ趣を充分表すことに努力しなくてはならない。

2. 兒童が比較的困難を感じるのは川の景色では、中景の濃い樹木の繁りと、水に映つて居る影である。

樹木の繁りはなるたけ一回の描寫で濃くそして凸凹の表はれるやうに描くことを授けるがよい。幾回も塗つて居ると穢くなつた上に死むだやうな感じが表はれて來るのである。水の中の影は最初淡き藍綠で一度塗り乾いたその上から二回に綠を、深綠の影を軽く描くのである。筆には充分水を含ませて置かねばならぬ。海の景色で困難なる點は、波がしらを形よくのこすこと、前景の砂原及び點景人物である。

これらの困難な點は一々教授者が實際にその描寫を示範して兒童に直觀させるに優る方法はないのである。如何に言葉巧みに説明してもその効果は示範には及ばない。

3. 教具としては、色の出し方説明圖構圖の説明圖及び描寫順序説明圖を用意し尙鑑賞畫も必要である。

第九課 花 (寫生畫)

1. 兒童各自に其の好める草花をモデルに選擇させるがよい。
2. 描法は兒童用書の範畫を參考すれば充分である。尙毛筆でなくて鉛筆淡彩若くば水彩畫として仕上げさせてもよい。
3. 教具としては、各種草花の範畫數種及び草花の描法順序説明圖を用意すればよい。

第十課 鳥 (寫生畫)

1. 第一學年の課外及び第一課を参照して聯絡のあるやう指導するがよい。
2. 教具としては、鴛鴦、雞、山鳥、雉、鴨、家鴨等の剝製標本及び範畫としての水彩畫、毛筆畫、描法順序説明圖及び賞用の毛筆畫、水彩畫、油繪等を準備すべきである。

第十一課 置物臺工作圖 (寫生畫)

1. 第一學年の第十八課第十九課に聯絡させて教授すべきである。

- 2、 教具としては彩色せる範畫及び置物臺を準備すればよい。
- 3、 置物臺は便宜簡單な構造の机等に變更してもよいのである。
- 4、 仕上げは淡彩を施さするがよい。又充分に精密正確を要求せねばならぬ。

第十二課 模様 (考案畫)

第十三課 模様 (考案畫)

- 1、 色畫用紙を使用させることもよい。
- 2、 教具としては、

- イ、 内部、外部便化説明圖。
- ロ、 配色手引
- ハ、 各種模様形式説明圖中の四方連續及び應用圖案繪模様に屬するもの。
- ニ、 明暗色便化説明圖
- ホ、 範畫。
- ヘ、 稍々程度の高さ模様 (鑑賞用)
- ト、 模様を施したる、花瓶、花、其他適當なる日用品數種。

を準備すべきである。

第三學期

第十四課 冬枯の景色又は夜景 (臨畫)

- 1、 第一學年第十七課に於ける田舎の景色の臨畫と略ぼ同一の取扱ひでよいのである。
- 2、 冬枯の景色で兒童の多く困難する點は樹木の枝の繁りである。第一學年の第十七課に於てもものべたる如く、全體の感じとして手本に似ればよいのであつて、何も一々の枝が手本通りに出來なくてはいけないと言ふことはないのである。教授者が描き方の模範を示して兒童に直觀させるやうにすれば餘程有效である。

夜景で困難な點は、全體の用筆が如何にもわざとらしくなることで、言葉を變へて言へば、手本があつてそれに似せやう似せやうと一點一點をくよくよとして畫いたと言ふことが明瞭にあらはれたるのである。それでは夜景の趣が誠に氣もちわるいものとなる故、あまり細部に立ちいつての筆法や一點一點は手

本をたよりにせぬやう注意することが大切である。例へば水に影じて居る家や堤や月や燈火やそれ等のものの形なにかは無理に手本に拘泥しない方がよいと言ふが如きである。その點が巧みにゆけばたいして困難な教材ではない。

3. 教具としては、描法順序説明圖、彩色順序の説明圖及び觀賞用の稍々程度高さ鉛筆畫、水彩畫を準備する必要がある。

第十五課 人物 (説明と臨畫)

1. 兒意はともすれば、顔、手、足等と部分部分についての描寫に逼して、大切な全體の恰好均合に對して一向無頓着であると言ふ弊に陥り易いから、その點については特別の注意をあたへねばならぬ。

2. 教具としては、人體の骨格及び割合圖を準備しなくてはならない。尙人物スケッチの範畫を數種用意して參考させるがよい。

第十六課 器物 (考案畫)

1. 參考となるべき器物がなくては稍々無理であるから適當な机、本箱、本立、椅子等の參考となるべきものを必ず準備して、それを基本として半ば改作的の考案

高等科第二學年 松浦 千年



葡萄圖



をなさしむるがよいのである。

2. 割合、寸法、均合等は極精密正確に注意して指導せねばならぬ。
3. 教具としては前記實物の外、範畫及び圖解力養成のために必要なる鑑賞畫を用意しなくてはならぬ。

第十七課 棚の工作圖 (寫生畫)

1. 第四課と同一意味の取扱ひでよいが、少々程度が高から充分の指導を要する。
2. 教具としては、書物棚、本戸棚のあまり大ならざるもの、彩色を施した範畫を用意せねばならぬ。

課外 田舎家の工作圖

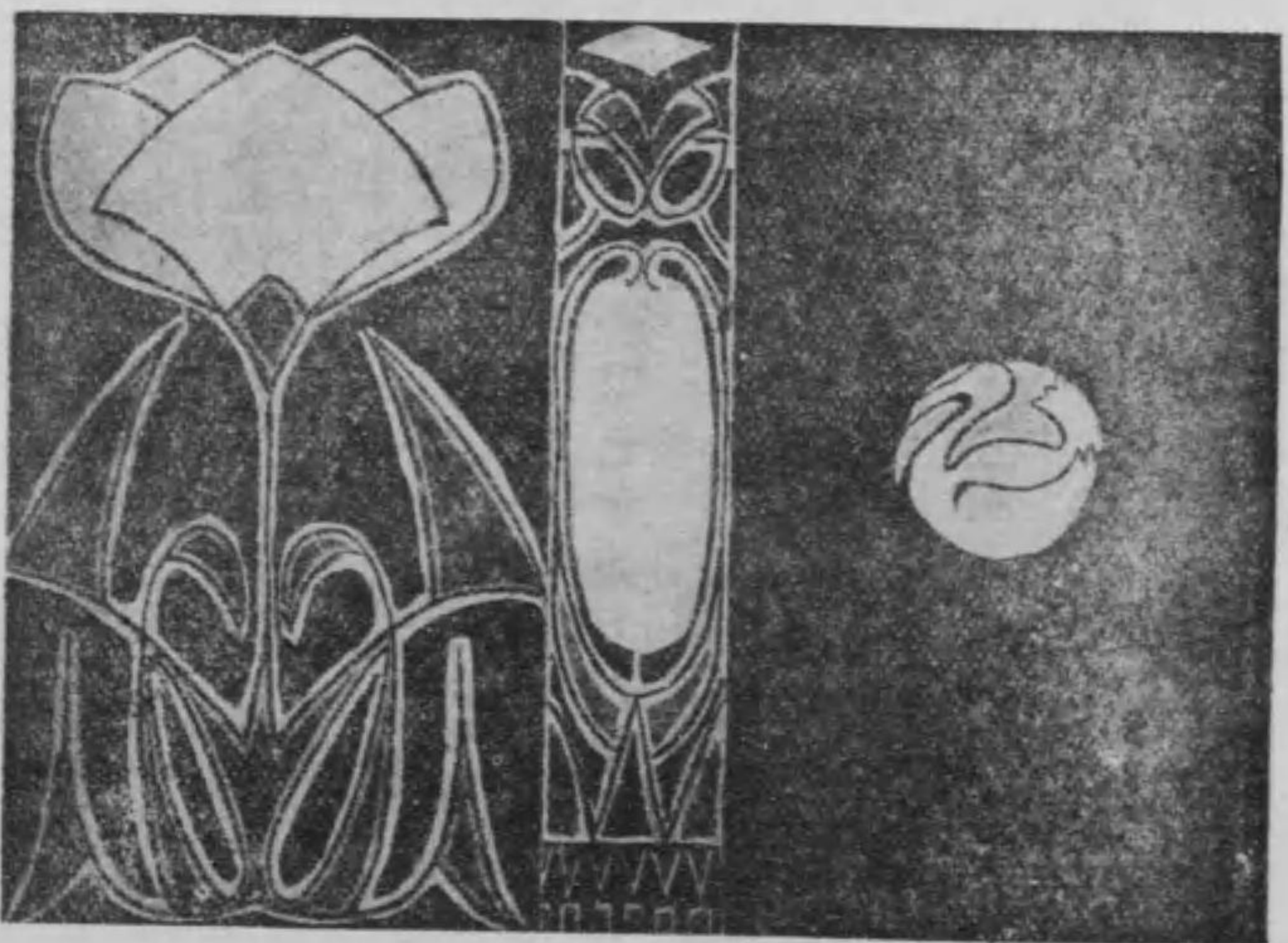
1. 臨畫として課したがよい。寫生では少々無理である。
2. 教具としては、
 - イ、範畫數枚
 - ロ、製圖上の符號説明圖
 - ハ、實測用の間竿が必要である。
3. 用紙は方眼紙がよい。

第百〇一圖



高二内山

第百〇四圖



高 二 古 野

第百〇二圖



M 2 N
中西金作



圖 四

州 州 丹 池 舟 舟



高等小學第三學年

第一學期

第一課 花(寫生畫)

1. モデルに選擇する花は櫻に類するものがよい。例へば桃、山吹、海棠等である。そしてモデルは兒童各自の好みに任せて選擇させるがよい。教授者の便利から言へば櫻なら櫻、桃なら桃と全級の兒童に皆同一の花を描かせた方が都合がよいのであるが、もう高等小學の三年にもなる兒童には選擇の自由を與へて各個人の技能を充分に發表し得るやうはからつてゆく方が實力を養成する上から言つて頗る有効であるのである。そのかはりモデルの種類が各人各様であるだけ教授者にとつては勿論種々な點に於て面倒は多いのである。尤も花ならば何でもよいと言ふ様に全然制限のない選擇法を許すのでは無い。前にもあつた様に又教師用書に説明してある事を標準として此の課では櫻に類した花でなくてはならぬのである。
2. 兒童用書の參考圖の如くに、バックを描かす場合には、唯無意味に一つの色

を塗らせると言ふ簡単な事でなく、何の必要から何故にバックがなくてはならぬものであるかと言ふ理由を教授せなくてはならない。理解させなくてはならぬのである。

3. 教具としては次に掲ぐるものが必要である。

- イ、各種の方面から見た花の輪廓の描き方を説明するに硬利な圖。
- ロ、水彩畫及毛筆畫 鉛筆畫の花の寫生、これに依つて描法の異なる所を明瞭に直觀させ、水彩畫風に仕上げさせる事を説明するのである。
- ハ、鑑賞用として名家の筆になれる花の寫生。
4. 輪廓を取つた鉛筆のあとには多少畫面に残つて居てもよいから消護謨の使用は極注意して軽く而も出來得るだけ少なくさせるやう注意しなくてはならないのである。

第二課 模様(考案畫)

1. 如何なる便化を工夫するにもその材料の特性は失はないやうに注意しなければならぬ事を説明してやるがよい。例へば櫻の花瓣の特性である處の上部

の四部を功みに應用すること。或は梅の花瓣の五瓣を六瓣として描くことや、朝顔の蔓の左巻を右巻とする事などの絶對に不可なること等である。

2. 又彩色に就いては、必ずしも其物の本來の色彩を採用せぬでもよき事を充分承知させねばならない。即ち山吹の葉は緑であるから必ず緑に類する色を使はねばならぬ等と言ふ不自由は無いのであつて、配合の關係上美の條件に合へば何の色を用ひても差支はないこと等の例である。

3. 線を以つて便化の方法を分類すると大體に於て三種に別け得る。第一は直線法、第二は曲線法、第三は直曲線混用法である。何れの方法に依るとしても模様様の巧拙は其考に依つて多種多様であつて勿論豫め定められ様もないのであるが、概して第一の直線法は一見セツショレ式の感じを表はし、第二の曲線法は一見ヌーボー式の感じを起さしむるものであることを問答法に依つて授けるがよい。

4. 本課の教具としては、

イ、配色手引。

ロ、外形、内部便化説明圖

ハ、日本風模様實際に應用を示せる説明圖。

5. 八つ切の畫用紙に二三種仕上げさする位の程度がよい。

第三課 器物工作圖 (寫生畫)

1. 寫生せしむべき物としては、兒童用書の參考圖と幾分聯絡のある器物を選択して兒童各自の好みに依つて自由に描かせるがよい。第一課と同じ様に或る標準のもとに選擇の自由を許すのである。

錢螺旋廻し、鐘等がよい。

2. 精密正確に而も畫面を穢くする車の無きやう又畫面に對する平面圖、正面圖、切斷面圖の位置が均合の見苦しくならない様描かしめなくてはならぬ。

3. 教具としては

イ、稍々高程度の器物裂圖を參考用に二三枚、

ロ、建築材料表示法掛圖を説明用に、

準備しなくてはならない。

第四課 製圖用の色圖 (説明)

1. 極通俗に用途の多い木、煉瓦、石、芝草、竹等の色調は是非記憶せしめる必要がある。本來から言へば教科書に示されて居る以外に、尙多數の材料があるので、教科書に掲げてある全部位は悉く記憶せしめる方が圖解力養成の上からは適當な要求であるのである。さう言ふ意味で取扱はねばならぬ。即ち本課の如きは全然智的材料としての取扱をせねばならぬのである。

2. 教具としては前課に用ひたる建築材料表示法掛圖及び西洋建築製圖のあまり複雑ならざるものを準備するがよい。尙此の外に部分的の圖解力を養成する爲に、單なる器物の着色製圖を三四枚用意すれば教授上尙更効果が多いと思はれる。

第五課 果物 (寫生畫)

1. 兒童用の教科書の桃の參考圖は外皮の色があまり極端に綠勝である。内部の肉の熟せる割合に外皮が鮮綠すぎるのである。勿論かう言ふ種類の桃水蜜桃の一種もあるけれ共普通では今少し外皮が黃色を呈して居るのである。そ

れ故教授者から兒童への説明は其の心持でしなくてはならないのである。

2. 寫生の材料は兒童の好みに任かせて選擇させること第一、第三課と同一である。材料は其の形、色彩等に依つて二個又は三個を美的に組合させるがよい。

3. 繪具を使用するに當つて果物類の寫生では往々色調が濁りたがるものであるから其點に就いては特に注意して指導をせねばならぬ。

4. 教具としては次の準備が必要である。

イ、範畫としての水彩畫。

ロ、鑑賞用としての水彩畫、或は油繪の稍々高程度のもの。

ハ、背景用の布、これは無地の物がよい。そして各種の色合ひを數枚用意してモデルの色調に調和する色を使用させる様に指導せねばならぬ。

ニ、モデルは五、六人に一組宛の割合でよい。

第六課 景色 (寫生畫)

1. 本課の教授に於ては見取枠を使用させるがよいと思ふ。

2. 鉛筆色彩の仕上げであるが、彩色の濃いのは鉛筆の趣を駄目にしやすいばかり

りでなく、描法も随分困難であるから、あまり濃くならないやうに淡彩を施させるがよい。

3. 季節と色彩の關係に就いても兒童用書の參考圖を材料として一通り簡單な説明をするがよい。季節の如何に依つて自然の色調が如何に變化するかと言ふ事は景色を描寫する上に於て甚だ重要な條件であるのである。教師用書に説明してある如く兒童用書の參考圖は場所の選擇と其の場所の部分の切方を知らしめるためであることは勿論なれ共季節に依つて大自然の色調の變化することを知らしむる事は又甚だ重要な注意條件であるのである。

4. 教具としては、

- イ、構圖の形式説明圖。
 - ロ、主眼點の定め方説明圖。
 - ハ、範畫としての鉛筆畫、鉛筆彩色畫、
- を準備し、尙兒童には見取枠、スラッシュボード略圖帳、畫板を用意させるがよい。

第二學期

第七課 器物 (寫生畫)

1. 教師用書に説明してある如く一般に光澤ある物體の表面は光線の爲め其の物體固有の色を失し、甚だしき場合は全然白色となる場合もあるが、彩色を施す場合にはやはり其物體固有の色調を基本としてゆけばよいのである。
2. 透明色及び不透明色の區別を授けるがよい。そして透明質の物體を彩色する場合にはなるだけ不透明色の使用をさける様にするものであることを教授するがよい。
3. 教具としては水彩畫、油繪の範畫三四枚と、透明色不透明色の區別を説明する色圖を準備すればよい。尙モデルは塗物、陶磁器等で光澤の充分なるものを教授者の方で選擇し組合せてやるがよい。若し兒童各自に選擇し準備する事が出来るなれば勿論其自由を許した方がよいことは第一課、第三課及び第五課と同一である。

第八課 植物 (寫生畫)

1. 本課は純日本風の彩色の方法で説明してあるので兒童用書の參考圖と純洋

畫の光線の作用を主とせる彩色畫との比較をなしつつ鑑賞教授をなす時は甚だ有效であると思ふ。

2. 彩色の順序は、花を第一とし、葉、莖と進んだがよいのである。
3. 白き花及び葉裏に胡粉を使用する方法も授けねばならぬ。
4. 教具としては範畫二三枚と、彩色順序を説明したる圖を使用すればよい。モデルは蝦夷菊に類したる花を兒童各自に選擇させるがよい。

第九課 (考案畫)

1. 教師用書の説明に、配色と感情との關係に就きて其大要を知らしむべしとあり、あるが、配色の感情は其根本を色相に伴ふ感情に發して居る部分が大部分である。心理學者の説明する處に依ると。
 - イ、赤 は頗る興奮性であつて勢力の感情を伴ひ。
 - ロ、黄 は稍々興奮的なれども暖い感情を伴ふ。
 - ハ、青 は沈青で冷たい感じを起させ。
 - ニ、緑 は青と黄との中間で平穩な喜樂の感情を伴ふものである。

ホ、紫 は赤と青との中間で不安な興奮と極めて陰鬱な真面白さの混合した感情を伴ふものである。

尙又明度に伴ふ感情も配色の感情の根本をなして居るもので心理學者は次の様に説明して居る。

- イ、白 は快活、喜樂の感情を伴ふ。
 - ロ、黒 は真面目、嚴肅の感情を伴ふ。
 - ハ、灰 は其中間の感情を伴ふ。
- けれども一定に前述の通りであると限定することは出来ないのである。元來が色に對する人間の感情作用は全然主觀的のものであるから、各人各様でそれぞれ異つた感情を起すものである。又同一人でも其境遇と時を異にするに従つて同一色に對して起る感情も亦千變萬化するものである。要は其人の主觀感想の如何に依るものであるから前述の如きも僅かに其の大意を言ひ表はしたに過ぎないものである。

2. 教具としては、

- イ、配色手引を兒童各自に用意せしむるは勿論である。
- ロ、各種配色圖。
- ハ、植物の硬化圖を準備しなくてはならない。
- ニ、尙古代日本模様 of 便化圖及び之を應用したるものを使用するが有效である。

第十課 圓柱相貫體の工作圖 (説明及び考案畫)

- 1、本課を考案畫としたのは、説明の終つたあとに應用として圓柱と方柱との相貫體につき練習せしめると言ふ其點からである。即ち圓柱の相貫體の説明を如何に參酌して考ふれば圓柱と方柱との相貫體を畫き得るかと思考する點に大部分の價値があるである。
- 2、本課の如く考案を主として描かす場合には淡彩を施さず等々の事は略して考案の方に充分の時間を與へ、その描寫に誤の無きことを期するのが最も肝要である。
- 3、教具としての教師用は教師用書の挿繪を擴大せる説明圖及び厚紙製の大小

- 二個の圓柱相貫體、圓柱と方柱との相貫體が必要である。大圓柱の端面の直徑六七寸長さ一尺一二寸でよい。小圓柱及び方柱はそれに準じた大きさでよい。兒童用は厚紙製又は畫用紙製の大小二個の圓柱の相貫體だけでよい。大圓柱の端面直徑一寸位長さ二三寸位で、小圓柱はそれに準じて相當でよいのである。兒童用としての圓柱と方柱の相貫體は不必要である。
- 4、實用として本課の如き製圖が如何なる場合に必要であるかと言ふ事を説明又は問答に依つて授けてやらねばならぬ。

第十一課 模様 (考案畫)

- 1、應用圖案として課したがよいと思ふ。女兒なれば半襟、手提袋、襟重等特別なものを選択し、又男兒ならば、商標或はレツテル、廣告圖案等の商業向、其の他工業的なもの等適當に限定するのである。かくの如く實際の社會生活と直接關係あるものを課することは甚だ意義あることである。
- 2、教具として準備すべきものは

- イ、商標、レツテル、廣告圖案の種類、

- ロ、半襟の二三、其の他簡単な袋物の模様入數個、
 - ハ、陶磁器漆器等の模様入數個、
 - ニ、配色手引
 - ホ、各種模様參考圖、
 - ヘ、動物、植物、其の他天然物象の便化圖、
- 等である。

第十二課 器物（寫生畫）

- 1、寫生材料はなるべく兒童の趣味に依つて選擇させ各自の好める器物を準備させるがよい。其の材料選擇に就いては、形狀、色彩の美なる調和を得たるものでなくてはならぬと言ふ制限をつけたがよい。
 - 2、教師の範畫二三枚と、名家の描いた鑑賞用のもの一二枚を準備したがよい。
- 第十三課 器物と模様（考案畫）
- 1、形狀、色彩の調和せる、尙美的な模様の應用してある、硯箱、花瓶、盆、湯呑、茶碗、鉢類、皿等をなるべく多數に準備して參考とさせるがよい。

- 2、範畫一二枚をも用意するがよい。

第十四課 家具工作圖（寫生畫）

- 1、第三課及び第四課と聯絡を應用させねばならぬ。
- 2、全然寫生として取扱はなくとも、或程度までは考案させてよいと思ふ。即ち兒童各自の課外に着手したる圖に就いてそれに一段の工夫をさせて半ば寫生的に半ば考案的に描かするのである。手工料の所謂改作と言ふ意味の取扱である。

- 3、教具としては、材料表示法の説明圖が必要である。

課外 瓦葺住宅の工作圖。

- 1、第二學年に於ける田舎家の工作圖と同一の取扱がよい。即ち寫生ではない臨畫として半ば知的教材の取扱をするのである。
- 2、方眼紙に描かするがよい。彩色もさせるのである。
- 3、教具としては、範畫、材料表示法説明圖を準備するがよい。尙稍々高程度の彩色したる建築製圖を鑑賞させるとよい。

新定畫帖教授の實際

終

（以下は非常に淡く、ほとんど不可読な印刷文字が並ぶ）

大正七年四月十六日印刷
 大正七年五月三日發行

新定畫帖教授の實際
 不許複製
 定價壹圓九錢

著者	谷山義毅
發行者	東京市神田區錦町三丁目五番地 久世勇三
印刷人	東京市麴町區有樂町二丁目一番地 吉原良三
印刷所	東京市麴町區有樂町二丁目一番地 報文社

發兌

東京市神田區錦町三ノ五
 大阪市南區三休橋南詰

大 燈 閣

振替東京三三六一八番・大阪(三)四七一九五番

近刊豫告

本書姉妹卷

東京高等師範學校教授 阿部七五三吉先生校閱 滋賀縣師範學校教諭 平木吉次郎著

圖書教授の實驗的新研究

此書も阿部先生が絶對的責任を以て校閱と修正の勞を取られたり

文部省 榎山榮治先生推獎 前香川縣同縣女子師範教諭 中村三吉先生共著

理科の成案

理科定則と兒童疑問類例

本書一卷に手ば如何なる教授案と如何なる質疑も忽ち成案し忽ち應答し得

發兌 東京市神田區錦町三ノ五 大錠閣書店 替振 東京三三六一八番 大阪二七一五五番

菊判約四百頁圖說明四百餘挿入 定價約壹圓八拾錢

菊判約四百頁圖說百餘挿入 定價約壹圓八拾錢

2633
136

2

終

